

media project untenor

RE05 sakanamachi project

「肴町今昔博覧会」

8th-10th November 2012

肴町プロジェクトとは

浜松まちなかにぎわい協議会は、設立三年目を迎える今年度から、街の主体者である地権者や住民が自分たちで自分たちの街を作っていくという大きなテーマに基づき、具体的自治組織と協力を、自分たちの手によるまちづくりの実践を進めていきます。

その第一弾となるRE05肴町プロジェクトでは、中心市街地に位置する肴町自治会と



肴町の商店街組織である肴町発展会の協力を得て、四ヶ月にわたって事業を展開していきます。肴町と有楽街を結ぶ細い路地（通称「背割道路」）を取り上げ、この空間の利用価値について公募スタッフとともに考え、実践していくプロジェクトです。

ロ達スタッフ一同は今年十一月のこの背割道路を利用した短期イベントに向けて、

肴町からの声



伊東 隆司
1930年生まれ
現在 伊東商店店主、肴町発
展会会長

にぎわい協議会を中心に若いスタッフと地元の人達と一緒に一つのことを考えていく取り組みということで、期待感があります。背割道路の問題は自分たちも見落しがない部分でもあったので、違う視点が入ることによる新鮮な提案に期待しています。若いスタッフに関しても、好きな事に対して今の安定を求めないで取り組んでいける姿勢に関心します。今回のテーマでもあるつながり、コミュニティという部分も含めて、今後どういう発展を遂げていくかが楽しみです。

スケジュール

ワークショップ	チームスタッフ
7月	拠点整備 小林ビルの掃除 家具運び入れ 調査 各店舗の歴史について調査
8月	研修 先行事例である 大阪市南崎町への研修
9月	提案 背割り道路を活用した イベントの提案
10月	イベント準備 イベント開催に 向けて準備
11月	実施 11月初旬～中旬開催

私たちが RE05の 運営スタッフです



青沼 克哉 あおぬま・かつや
1989年 静岡県浜松市生まれ
早稲田大学大学院修士1年
浜松西高校を卒業し、現在は建築学を勉強しています。もともと浜松の中心市街地に対して何か建設的なアプローチはできないかと考えていた時、このプロジェクトを見つけました。この活動を実践の場とし、自らのターニングポイントと捉えてやっていきたいと思っています。



伊藤 彩良 いとう・さら
1993年 岐阜県大垣市生まれ
静岡文化芸術大学空間造形学科1年
大学の大建築サークルの先輩に勧められ参加しました。調査、企画、話し合い、人とのコミュニケーションなど自身の成長に繋がる要因が多くあります。この機会を大切に、励んでいきたいです。



折田 千秋 おりた・ちあき
1993年 青森県十和田市生まれ
静岡文化芸術大学空間造形学科1年
大学の建築サークルの先輩に勧められ参加しました。調査、企画、話し合い、人とのコミュニケーションなど自身の成長に繋がる要因が多くあります。この機会を大切に、励んでいきたいです。



金田 梨沙 かねた・りさ
1987年 京都府京都市生まれ
パッケージ制作会社勤務
これまで京都、東京、仙台、浜松、別府、イギリス、大阪…と様々な土地で過ごしてきました。色んな土地で過ごした事で出会いは必然だと感じています。RE05への参加も縁あっての事で、様々な分野の方と出会えお話を伺える事がとても楽しみです。



栗田 佳樹 くりた・よしき
1991年 静岡県川根町生まれ
静岡大学情報学部情報社会学科3年
大学の授業の一環でこのプロジェクトに参加しています。初対面の方との活動は常に新鮮で、様々な事を学ばせていただいております。多くの人と関わることで、自分の見識を広げていきたいです。



塚本 麻友 つかもと・まゆ
1991年 愛知県刈谷市生まれ
静岡大学情報学部情報社会学科3年
大学の講義でこのプロジェクトを知り、活動に参加させて頂きました。学校では外部の人々と関わる機会はなかなか無いので、様々な人々と関わり合いながら自分の視野を広げ、楽しく活動していけたらと思います。



土屋 龍太郎 つちや・りゅうたろう
1985年 静岡県浜松市生まれ
浜松ホトニクス勤務
社会人として浜松市に帰ってきて、昨年のRE03から参加させて頂いています。RE05の参加者や肴町の人々とコミュニケーションをとることで生まれる可能性を楽しみにしています。これから宜しくお願いします。



名倉 早紀 なくら・あき
1991年 静岡県浜松市生まれ
静岡大学情報学部情報社会学科4年
私は浜松市出身なので、このプロジェクトを通して自分の生まれ育ったまちをもっとより良いものにしていけたら、と思っています。また、色々な方と関わることで自分の視野を広げていきたいです。よろしくお願ひします。



坂野 貴洋 ばんの・たかひろ
1992年 愛知県名古屋生まれ
静岡文化芸術大学空間造形学科2年
静岡文化芸術大学で建築を学んでおり、私はまだ、浜松に来て二年目ですが、肴町の皆さんというお話をすることで肴町や浜松のことをもっと知り、浜松に住む人間として積極的にまちづくりに参加していきたいです。よろしくお願ひします。



伏見 綾乃 ふしみ・あやの
1990年 静岡県静岡市生まれ
静岡大学情報学部情報社会学科4年
大学3年生の時から自治会の調査を行っていることもあり、その繋がりが今回のプロジェクトを知ることとなりました。大学で学んだことが、実践の場で活かしていけたらと思っています。また、大学生の自分では知り合うことのできない人と、接することも楽しみにしています。



山下 泰弘 やました・やすひろ
1985年 静岡県浜松市生まれ
派遣会社勤務
RE03から参加させて頂いている山下泰弘です。子供の頃から遊びに来ていた街から昔の様にぎわいなくなってしまうことに寂しさがありません。参加する仲間、街の人たちと協力し、活気がある街を取り戻したいです。

レポート アンテナ代表 辻琢磨

6月26日レクチャー

「つながりから地域の魅力を考える」

RE05の肴町プロジェクトでは、背割道路の利活用提案という具体的な目的を掲げる一方で、「つながり」という柔らかな言葉もひとつのキーワードとして設定している。その「つながり」から地域の魅力について考えていこうという特別講義をRE05の事前説明会と合わせて、去る6月26日、肴町公会堂にて開催させて頂いた。

この講義は、RE05の肴町プロジェクト特別事前講義「つながりから地域の魅力をつくる」と題し、講師には静岡大学情報学部教授の笹原恵氏、横浜、石巻で活動する建築家西田司氏をお招きし、地域コミュニティのあり方とこれからを軸に講義が進んだ。

会場となった肴町公会堂には、商店街に携わる方々、学生、社会人、と80名を超える多種多様な来場者が詰めかけ、熱気を帯びた。

横浜で活躍する若手建築家の西田司氏は、震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市中心市街地活性化の取り組みを主に紹介し、従来型のリゾート型観光ではなく里帰りを体験するような観光計画や、工房を併設した拠点整備など細やかな実践を披露した。街を作る時の価値観が大きく変わろうとしている。今まで当たり前だった、商業や観光、活性化という意味合いが変化している。西田氏の活動はその変化を見事にキャッチし、実行するものだった。

一方、同じくゲストにお招きした静岡大学情報学部教授笹原恵氏のレクチャーは、震災後の新しい時代に直接コミットする西田氏とは対照的に、歴史を紐解きながら現代を考えるものだったといえる。自身の分野である社会学は、噛み砕いて言えば人のつながりを考える学問だそう。人と人とがどのようにつながってきたか、家族、友人、ジェンダー、自治組織などから研究を進めてきた。2005年の大合

で浜松市の自治会は738に膨れ上がったという。自治会という組織もこの大合併で同一市町村内で格差が生まれ、高齢化率や世帯数比率に市街地と山間部で大きな溝があるそうだ。

ここで市街地に目を向けてみた時、自治体組織の構築に大きく寄与しているのが、浜松まつりであるということがこの日の笹原氏のメインテーマとなった。一年の殆どをたった3日間のための準備に費やす浜松まつりの運営母体は地域自治体である。それはつまり、祭りの組織体系が日常の自治運営にそのまま影響を及ぼしているということでもあり、笹原氏は「本番の盛り上がりは言わずもがな」この浜松まつりの日常的な側面に着目し、浜松まつりが日常生活を含んだ地域活性化に如何に貢献しているのかを説いてくれた。新しい価値観を細やかに創りだす西田氏と対照的に、笹原氏の研究は今すぐにある歴史や組織の再評価し、地域資源として見出し、いく術を示したと言えよう。

その後の来場者を含めたディスカッションでも多様な意見が交換され、この日の講義は盛況に幕を閉じた。現状を直視し、細やかに新しい価値観を実践する西田氏の活動と、歴史に目を向けその価値を再評価する笹原氏の研究は、「つながりから地域の魅力をつくる」という今回の講義テーマから見直した時、大きなヒントを我々に与えてくれたように思う。



「今」と「昔」をつなぐ、 新しいにぎわいの形

これまちプロジェクトとは「これからの『街の使い方』を始めよう」というキャッチフレーズと共に始動した浜松まちなかにぎわい協議会とメディアプロジェクト・アンテナによるプロジェクト。街の主体者が自分たちで自分たちの街を作っていくという大きなテーマに基づいて、具体的な自治組織と協力して自分たちの手によるまちづくりを推進する事業です。

まちの温かみ
を感じる

11月10日に開催された希町今昔博覧会内企画「希町みんなき亭」風景

希町は活気のある商業エリアであると同時に、居住区域でもありました。路地に家庭の物が物置代わりに置かれていたり、子供の声が聞こえたり、籠を提げた買い物婦りの奥様が歩いていたり、人々の生活の様子が垣間見られるような地域でした。単なる商店の集合区域ではなく、そこには日々の生活の営みが見み出ていました。

©kamerakamerakamerai

世代を超えた
つながり

11月10日に開催された希町今昔博覧会内企画「路地裏であそぼ！」風景

まちの主役は若者だけでなく、大人だけでも、子供だけでもなく、多様な価値観を持つ一人一人全員です。違う価値観を持った人たちが触れ合うことで生まれる、新しい化学反応がこれからの社会の持続可能性を高めていきます。誰もが共感できる価値観を基盤にした、世代を超えた私たち自身によるまちづくりが今求められています。

©kamerakamerakamerai

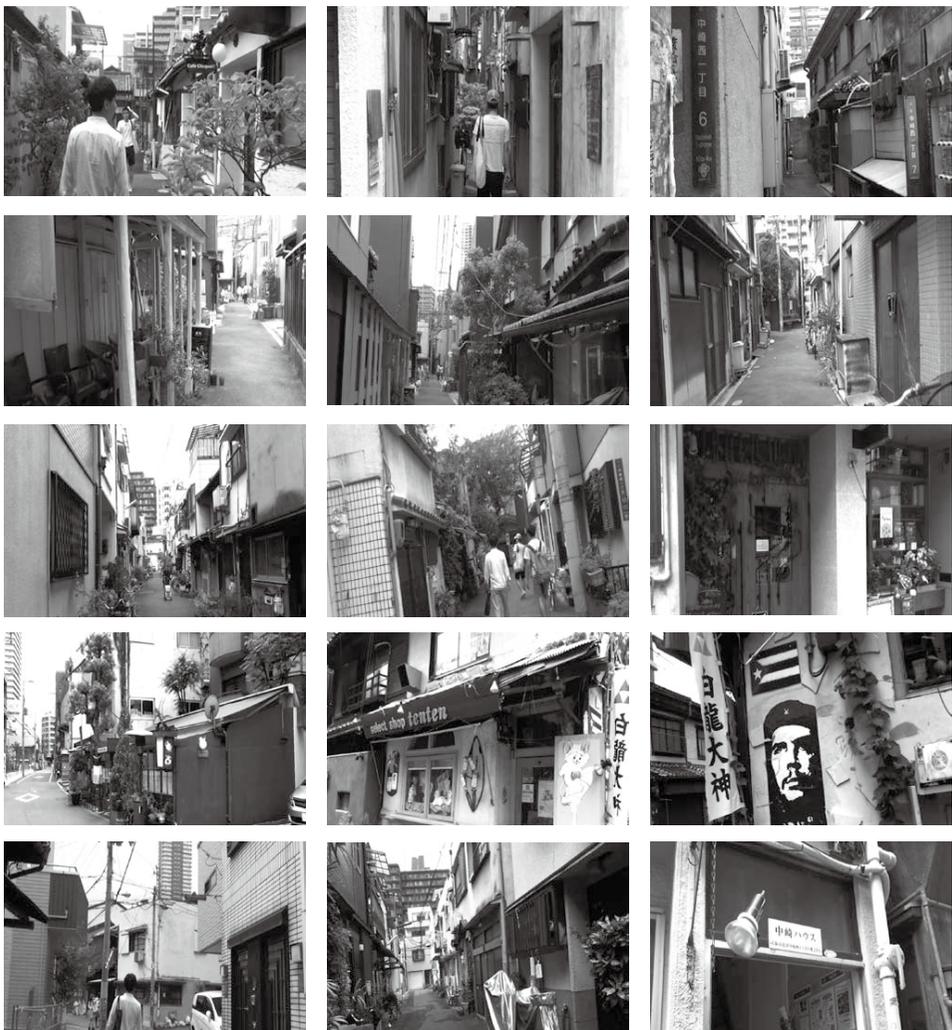
地域資源を
見つける

11月10日に開催された希町今昔博覧会内企画「猫っ跳び史料館」風景

まちに眠る地域資源。普段誰も気に留めないようなたの裏路地でも、光を当てただけで価値が生まれます。歴史を積み重ねたすべての要素に現代の価値観を加えて、歴史を知る人も、知らない人もその価値を実感できるような状況を作ることが重要なのです。

©kamerakamerakamerai

「今」の大阪・中崎町



「昔」の浜松・肴町



昭和50年代の肴町・写真提供松作商店

そこにある歴史から
現代の価値観を考える

これまちプロジェクトは、浜松
まちなかにぎわい協議会、メ
ディアプロジェクト・アンテナ、
肴町とが共同して7月から運営
されました。その過程で、五回
の意見交換ワークショップが行
われ、11月の肴町今昔博覧会開
催に向けて、意見の共有が図ら
れました。

この写真は、第一回の意見交換
ワークショップ（次ページ下部
参照）で調査した肴町の昭和50
年代の風景です。ヒアリングを
進める中で、昔の肴町に感じら
れる人のつながりや路地裏の風
景が豊かな価値観によって作ら
れていたことがわかりました。
昭和30年代の肴町では、満員の
映画館が3つもあったり、お惣
菜屋をはしごして晩御飯を揃え
たり、道に緑台を出して井戸端
会議が始まったり、町に人の生
活とふれあいがあったと言いま
す。参加した若いスタッフもこ
のような価値観を知り、イベン
トの提案へとつなげていきまし
た。

現代にある豊かさを
確かめる

第二回意見交換ワークショップ
で発表された大阪・中崎町の現
在の風景です。若いスタッフの
価値観はこの風景を「豊か」だ
と判断しました。

中崎町は、梅田駅から徒歩十分
に位置し、戦災を免れ古くから
地域のコミュニティが残ってい
た限界です。そこへ若い力が加
わり、今は生活とカフェや雑貨
屋などの小さな商業が混在する
エリアとなっています。今昔博
覧会が開催された背割道路に似
た路地空間が、老若男女でにぎ
わっている。そうした街の多様
性にこれからの街を考えるピン
トが眠っているのです。

「今」だけでも、
「昔」だけでもない、
私たちの価値観へ

先の第一回の結果である昔の肴
町の豊かさとの中崎町の豊か
さをミックスさせた価値観で、
肴町今昔博覧会が企画されてい
きました。

肴町今昔博覧会レポート

平成 24 年 11 月 6 日 入 館：中 区 肴 町 背 割 道 路 周 辺



肴町みんなき亭



背割り道路沿いの駐車場に食卓を並べ、来場者に朝食と晩ご飯を提供しました。朝食は肴町で購入できる素材を利用し、夕食は肴町の飲食店に協力していただき献立を作成しました。



©kamerakamerakamerat

路上劇場セワリ座



昭和 30 年代の名作映画、はままつ動画チャンネルのなつかし動画、静岡文化芸術大学学生の映像作品など新旧の動画を屋外で上映し、同じ空間を来場者と共有しました。



©kamerakamerakamerat

ワークショップ番外編/清掃活動

イベント開催に向けて、10月の毎週日曜日は背割道路の清掃活動を実施しました。



KJ法による昔と今の価値観を比較

運営スタッフは毎週日曜日に夜遅くまで活動しました

毎回多様な背景を持つ方が集まり、意見が交わされました

ワークショップ会場は肴町公会堂をお借りして実施されました



折田 千秋 おりたちあき
1993 年 青森県十和田市生まれ
静岡文化芸術大学空間造形学科 1 年

貴重なものを得た 4 ヶ月でした。このプロジェクトに参加していなかったらまちづくりに関わっている人々やその方たちの努力を知らぬまま終生過ごしていたかもしれないと考えると、おそろしいです。さまざま人々と交流できたことは今後の人生において貴重な体験だったと思います。



伊藤 彩良 いとう さら
1993 年 岐阜県大垣市生まれ
静岡文化芸術大学空間造形学科 1 年

色々な方と出会うことでそれぞれの想いや価値観があり勉強になりました。やりがいを感じるとはこういう事だと改めておもったこと、何と言っても楽しめたことが 1 番大きな財産です。温かい思い出をありがとうございました。



青沼 克哉 くりた よしき
1989 年 静岡県浜松市生まれ
早稲田大学大学院修士 1 年

私は主に会場構成の面で関わってきましたが、いちばん印象に残ったのは、2つの背割道路が、物置や吹き溜まりのような空間ではなく、コミュニケーションを生む公共空間として機能していたことでした。これからもまた何らかの形で肴町に関わっていけたらと思います。

肴町プロジェクトを終えて。運営スタッフから一言



土屋 龍太郎 つちや りゅうたろう
1985 年 静岡県浜松市生まれ
浜松ホトトクズ勤務

ワークショップやイベントを体験することで過去と現代の良い印象や価値観は、昔も今も良いコミュニケーションを通じて生まれていると感じました。今回のイベントで生まれたコミュニティから継続的な良い関係性が生まれることを願っています。



塚本 麻友 つかも まゆ
1991 年 愛知県刈谷市生まれ
静岡大学情報学部情報社会学科 3 年

今回のイベントを通じて、RE05のスタッフや浜松まちなかにぎわい協議会の方、肴町の方々やイベントに来てくださったお客様など、様々な人々に関わることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



栗田 佳樹 くりた よしき
1991 年 静岡県川根町生まれ
静岡大学情報学部情報社会学科 3 年

直前の計画変更などアドリブ感満載の 3 日間でしたが、無事に終了して一安心です。企画の内容を詰めていく行程で、様々な職業、年齢、属性の方々との出会い、多くの刺激を受けました。かけがえのない出会いの全てに感謝です。



金田 梨沙 かねたりさ
1987 年 京都府京都市生まれ
パッケージ制作会社勤務

肴町を通して私たちが知らない街の歴史や個人の歴史等、普段関わることのない人達から多くのことを学べました。3 日間のイベントだけでなく、準備期間も含め、スタッフとして活動できてとても充実していました。ありがとうございました。



山下 泰弘 やました やすひろ
1985 年 静岡県浜松市生まれ
派遣会社勤務

肴町の方たちの感謝の言葉と笑顔を見ることが出来て心からのうれしさと感動を感じました。肴町の方たちと共にアイデアを出し合い、今まで見失っていたことに新しい価値を見つかることが出来たと思います。これからの街でどんなことが起こっていくのか本当に楽しみです。この縁に心から感謝です。



伏見 綾乃 ふしみ あやの
1990 年 静岡県静岡市生まれ
静岡大学情報学部情報社会学科 4 年

肴町の地域の方、社会人、学生など々のコミュニティに属する人が同じ方向を向いてイベントを行う試みが面白く、実りのあるものだったと思います。感謝と反省の念がいっぱいです。これからもこのような試みが、別の形であれ続いていることに協力したいと思いました。



坂野 貴洋 ばんの たかひろ
1992 年 愛知県名古屋市生まれ
静岡文化芸術大学空間造形学科 2 年

学校の中でしか学習したことなかった学生の私にとって、今回のプロジェクトは、初めての体験ばかりでした。特に、世代が違う人たちと友達になれたことがとても新鮮で、自分の成長にもつながったと思います。出会いに感謝するとともに、そのつながりを大切にしていきたいです。



名倉 早紀 なぐら さき
1991 年 静岡県浜松市生まれ
静岡大学情報学部情報社会学科 4 年

このプロジェクトを通して、普段関わりのない人たちと一緒にものを作り上げていくことで、自分の価値観が広がったような気がします。また、まちづくりに決まった形、眼界などはないということを強く感じました。貴重な経験をする事ができました。

路地裏であそぼ！

竹馬や、路上の遊び、剣玉やあやとり、三将棋、缶蹴りなど昔々今の遊びを子供たちに教えたり、教わったりしながら、多世代のコミュニケーションを図りました。



©kamerakamerakamerat

猫っ跳び史料館



浜松や肴町にまつまる、大小さまざまな歴史を背割り道路沿いに展示です。浜松市博物館の協力のもと展示される浜松市全体に関わる歴史パネル、今年ついに解体された松菱百貨店関連の写真、この博覧会の元になった RE05 肴町プロジェクトのワークショップで得られた肴町各店舗の小さな歴史など、いろいろな視点から浜松や市民の生活の歴史を紐解き、路地裏の価値を発信しました。



©kamerakamerakamerat

意見交換ワークショップの様子

これまでプロジェクトでは、11月の背割道路周辺を利用したイベントに向けて、4ヶ月間、調査提案、準備、実施というフェーズで運営され、その都度、住民の方々に成果報告と意見交換を兼ねたワークショップを合計5回、開催しました。地域の小さな歴史の調査や大阪・中崎町への研修、イベントの企画提案など、毎回多様な議論が若いスタッフと地域の方々との間で交わされました。



第一回ワークショップでは昭和の写真や地図を使ってヒアリングを実施